事例番号 062　身近な歴史資産を活かす市民の力（新潟県村上市）

## 1. 背景

村上市は新潟県北部の日本海沿岸に位置する人口 3 万人強（2006 年 3 月）のまちである。17 世紀はじめに藩主堀直竒によって城下町が整備されたのがまちの起源であり、今日でも城（跡）、町人町、武家町、寺町の 4 点セットが残っている全国でもめずらしいまちと言われている。豊かな歴史資産を有しているとともに、周囲には瀬波温泉などの観光資源もある。また、鮭料理をはじめ北限のお茶、村上木彫り堆朱などの伝統的な地場産品にも恵まれている。村上市はこのような歴史と文化のあるまちであることから、市も「観光文化都市」を標榜してきた。

村上市の位置　（資料：村上市観光協会ホームページ）

しかしながら、近代化の波が地域に波及する過程で、旧町人町で町屋が取り壊されて近代的な建物に変わったり、都市計画道路を整備するための道路拡幅で町屋のある街並みが失われようとするなど、まちの姿を大きく変えるような動きが出てきた。1980（昭和 55）年頃から増加してきた観光客も 1996（平成 8）年の約 180 万人をピークに減少に転じた。また、大町・片町・駅前などの中心商業地では定住人口が大幅に減少し、買い物客も国道 7 号沿いの郊外型商業地などに流出するようになってきた。これらの背景には以下のような事情があったものと考えられている。

・ 観光の形態が団体で観光地をめぐる通過型から、ゆったりとその都市に滞在して地域の歴史・伝統・文化等に触れる滞在型・体験型に変化してきたこと
・ 定住人口の減少により中心市街地で最寄品を扱う店舗が少なくなるとともに、商品・サービスの魅力が低下してきたこと
・ 郊外型大型店の出店がその傾向を強め、中心市街地ではさらに空き店舗・空き地が増加して一層集客力が弱まるという悪循環に陥ったこと

これらの状況に対処するために近代化を急ぐべきだとの声もまちの人々の間では強かったが、村上市のまちづくりはむしろ歴史資産を活かす方向でこれまで進められてきた。そしてそれが大きな成果を上げてきた。そのきっかけとなったのは、1997（平成 9）年頃に持ち上がった道路の拡幅を伴う大規模な開発計画であった。これに危機意識を持ったのが後に「観光カリスマ」（国土交通省）に選ばれた吉川真嗣（きっかわしんじ）氏であった。氏は、1998（平成 10）年に会津復古会初代会長の五十嵐大祐（いがらしだいすけ）氏の助言「村上が素晴らしいのは武家町と町人町の両方が残っているから」という言葉を聴き、町人地を近代化して町屋を破壊することは町の衰退につながるとの考えに賛同した。そこで、町屋の良さを人々が再認識する運動を開始し、吉川氏の呼びかけに賛同した 22 店舗（和菓子、鮭珍味、地酒、郷土料理、染物、工芸品等）によって「村上町屋商人（あきんど）会」が結成され、町屋の常時公開が実現した。同会では「城下町村上絵図」を作成して新聞に折り込むなどして町屋への関心を高め、その後、同会のメンバー中心に町の人々の協働により「町屋の人形さま巡り」、「町屋の屏風まつり」等が展開されることになった。

**2. 目標**

2001（平成 13）年に策定された「第三次村上市総合計画」は、まちづくりの基本理念として

「人が活きるまち」
「自然が生きるまち」
「伝統・文化がいきるまち」

の 3 つを掲げている。観光に関しては、市に残る歴史・文化等の資産の中で「核となる観光資源」を明確化して「魅力ある観光資源」として一層磨きをかけて整備し、顕在化させていくことを基本方針としている。その一環として、市民、商店主、民間企業・団体が中心となり、先進的で自主的・自立的な活動として「伝統・文化をいかした祭り・イベントの開催」、「町屋の再生」、「まちの情報発信」などが精力的に行われている。

また、村上市では 2005（平成 17）年 9 月に「村上市地域観光振興計画」が策定された（「外国人観光旅客の来訪地域の整備等の促進による国際観光の振興に関する法律」に基づいて策定されたもの）。同計画では、外国人観光客の誘致に行政と民間とが連携して積極的に取り組む方針を掲げ、情報発信の充実、観光魅力の向上、外国語案内表示の充実等により、2004 年度時点で約 1,000 人の外国人観光客を 2015 年度には 3,000 人にする計画を掲げている。

村上市における観光旅客数の推移　　（単位：人）

| 年　度 | 県　内 | 県　外 | 外　国　人 | | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平成 10 年度 | 923,910<br>(56.0) | 722,830<br>(43.8) | 670<br>(0.04) | 〔100〕 | 1,647,410 |
| 平成 11 年度 | 992,230<br>(58.3) | 708,060<br>(41.6) | 800<br>(0.04) | 〔119〕 | 1,701,090 |
| 平成 12 年度 | 873,400<br>(56.9) | 659,450<br>(43.0) | 740<br>(0.04) | 〔110〕 | 1,533,590 |
| 平成 13 年度 | 1,013,420<br>(62.1) | 615,220<br>(37.7) | 1,200<br>(0.07) | 〔179〕 | 1,629,840 |
| 平成 14 年度 | 1,012,190<br>(61.8) | 622,990<br>(38.0) | 1,560<br>(0.09) | 〔233〕 | 1,636,740 |
| 平成 15 年度 | 824,710<br>(52.4) | 745,070<br>(47.4) | 1,520<br>(0.09) | 〔227〕 | 1,571,300 |
| 平成 16 年度 | 804,190<br>(60.7) | 518,470<br>(39.1) | 1,030<br>(0.07) | 〔154〕 | 1,323,690 |

（注 1）　外国人観光旅客数は、瀬波温泉地区の宿泊者数

（注 2）（　）内は総数に占める割合

（注 3）〔　〕内は平成 10 年度を 100 とした場合の指数であり、平成 10 年度から 15 年度にかけて年平均 18％増加している。

（出典）「村上市地域観光振興計画」（2005 年 9 月 5 日）

村上市地域観光振興計画の目標

①外国人観光旅客の来訪に関する目標

| 項　　目 | 2004 年度<br>（現在） | 2010 年度<br>（5 年後） | 2015 年度<br>（10 年後） |
|---|---|---|---|
| 来訪者数（宿泊者数） | 1,030 人 | 2,000 人 | 3,000 人 |
| 外国語パンフレットの言語数 | 0 ヶ国語 | 5 ヶ国語 | 5 ヶ国語 |

②その他

| | | | |
|---|---|---|---|
| 黒塀の設置（延長） | 130 メートル | 約 600 メートル | 約 700 メートル |
| 町屋の再生軒数 | 2 軒（2005 年） | 10 軒 | 20 軒 |

**3. 取り組みの体制**

村上市のまちづくりは吉川真嗣の町屋の良さを見直すための働きかけが契機となり原動力となってきた。町屋の良さをアピールするため、1998（平成 10）年 7 月に町屋地区で物産を扱う 22 店舗で「村上町屋商人（あきんど）会」が結成され、町屋に残るひな人形や古屏風を公開するなどのソフト事業と「黒塀」の設置や店舗外観の改修などのハード事業を行ってきている。2001 年 6 月に新たに 7 店舗が加盟して現在は 29 店舗がメンバーになっている。13 軒が町屋空間を公開し、13 軒が「観光案内所」の看板を出している。同会は 2003 年度に「地域づくり総務大臣表彰」を受けた。

一方、2002 年には「チーム黒塀プロジェクト」が発足してブロック塀の景観を黒塀に戻す活動が行われている。また、2004 年に町屋再生を図る市民有志により「むらかみ町屋再生プロジェクト」が発足し、伝統的な町屋の修景活動が行われてきている。

2005 年 6 月に「村上観光ルネッサンス」という組織が設立された（同年 9 月に NPO 法人化）。同

会は「観光とは、その地域の文化を五感を使って観る」をモットーに、村上市の観光関係団体と町並み関係団体によって構成されている。これまで、景観形成に関する事業（板塀の建設等）、古材バンク（町家解体調査保存事業、古材収集事業）、乗り合いタクシー・市内循環バスの運行事業、城下町情報館運営等を行ってきている。

その他、「むらかみ古民家倶楽部」、「むらかみ町屋再生プロジェクト」「村上大工　匠の会」などの組織がまちづくりに関する活動を展開している。

## 4. 具体策

### (1) まちづくりの経緯

村上市のまちづくりの経緯は概略以下のようである（吉川真嗣氏ホームページ等から引用）。

| | |
|---|---|
| 1998 年 | 「村上町屋商人（あきんど）会」設立、町屋の公開が開始される |
| 2000 年 | 「町屋の人形さま巡り」開始（村上町屋商人会） |
| | レンタサイクル 10 台を村上郷土資料館に設置（同） |
| | 美術館「旅龍門」開館（同） |
| 2001 年 | 「町屋の屏風まつり」開始（同） |
| | 「十輪寺えんま堂の骨董市」開始（大町振興会） |
| 2002 年 | 「チーム黒塀プロジェクト」発足、現在までに 150mの黒塀完成 |
| | 「宵の竹灯篭まつり」開始（黒塀プロジェクト） |
| | 「むらかみ古民家倶楽部」結成、古民家コンサート開催 |
| 2004 年 | 「むらかみ町屋再生プロジェクト」設立 |
| | 「町屋の外観再生プロジェクト」開始（むらかみ町屋再生プロジェクト） |
| | 6 月に町屋再生第 1 号（早撰堂）完成（同） |
| 2005 年 | 6 月に町屋再生第 2 号（山上染物店）が完成（同） |
| | 同月、村上駅外観をレトロに改修 |
| | 「村上観光ルネッサンス」発足、観光ルネッサンス事業開始 |
| 2006 年 | 1 月に町屋再生第 3 号（池田屋）開始 |
| | 「観光村上再生シンポジウム」開催（村上観光ルネッサンス） |
| | 乗合タクシー、シャトルバス運行開始（村上観光ルネッサンス） |

### (2) 「町屋の人形さま巡り」

1998 年に町屋の公開を開始した「村上町屋商人会」は、吉川氏の主導により2000（平成12）年3月 1 日から 4 月 3 日まで「町屋の人形さま巡り」を開催した。これは、町屋に残る雛人形、武者人形、土人形、市松人形、ウルトラマン、ペコちゃん人形、ウズベキスタンの土人形等を展示して無料公開したものである。

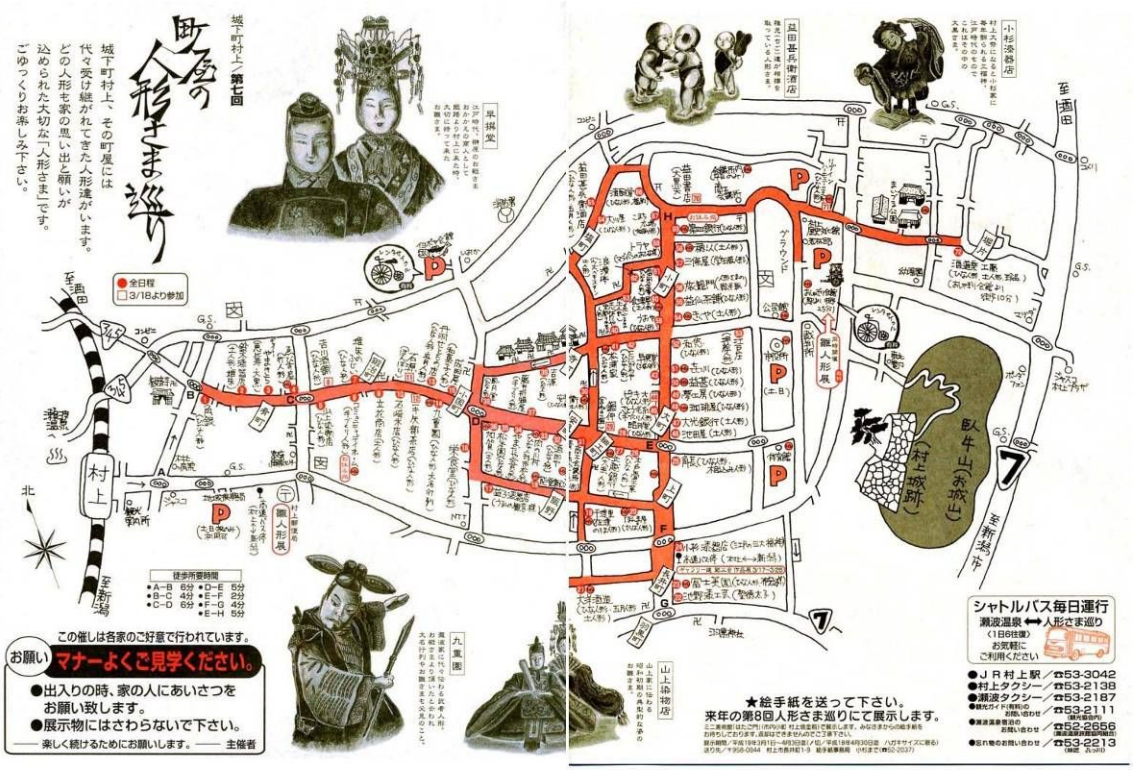
旧町人町に残る町屋（商店街）は、間口が狭く、奥行が長く、箱階段などが残り、建物内部の造りが珍しい上、各家には先祖伝来のひな人形、武者人形等が秘蔵されている。この資源を各店の協力で展示し、建物内部の居間や座敷に観光客を招き入れて見てもらい、あわせて生活ぶりも見てもらうという「町屋衆の心意気を示した企画」が「町屋の人形さま巡り」であった。

このイベントは、60 軒もの町屋が生活空間で人形を展示して説明もしてくれるということで大変な話題になり、約 3 万人の来場者を集めた。イベントに要した経費はわずか 35 万円程度（マップ、ポスター代 30 万円、雑費 5 万円）であったが、その経済波及効果は約 1 億円であったと言われている。また、イベント通じて地域の人々が一体となって来訪者を心温かく迎え入れるホスピタリティが醸成されたこと、地域の人々の交流が生まれたことなど、経済効果では計れない大きな効果をもたらしたということである。

翌年からも毎年 3 月に開催されてきたが、観光客は年を追うごとに増加し、参加店も 70 軒を越え、現在では全国から約 10 万人もの観光客を集める一大イベントに成長している。テレビ（NHK「新日曜美術館」など）、新聞、雑誌等でも取り上げられ、一層知名度がアップした。2001（平成 13）年には、新潟県異業種交流センター主催の第 10 回「地域活性化大賞ベストオブベスト賞」を受賞した。「町屋の人形さま巡り」は地域の誰もがまちの資源とは思っていなかったものをほとんど金をかけずに活かして大きな経済効果をもたらした極めて優れた事例として理解できる。2006 年 3 月の参加店、展示品は以下のようになっており、地域の様々な人々が一体となって実施することで地域社会の育成におおいに寄与しているものと思われる。

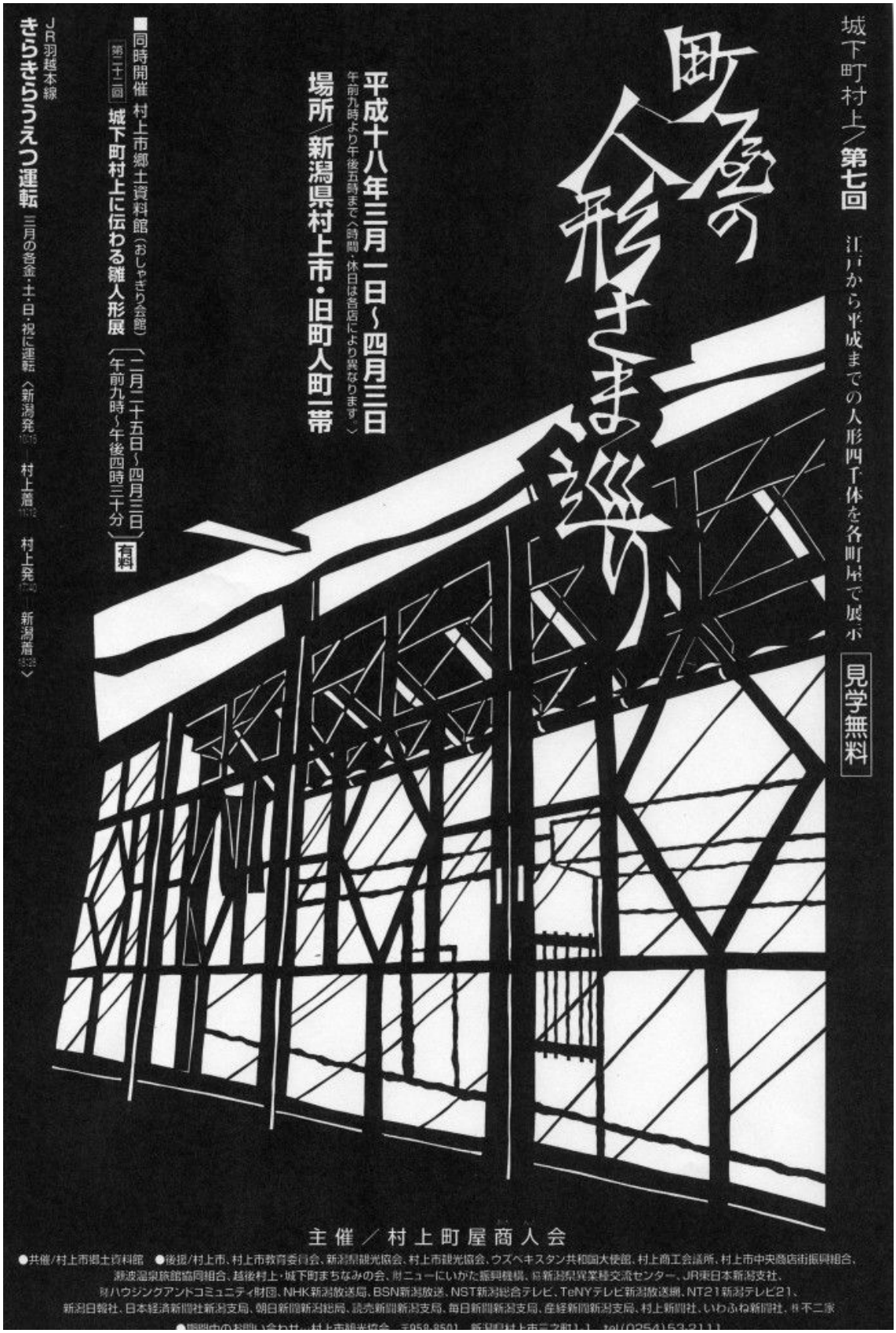
（肴町）【角銀】雛人形、【鈴木漆器店】土人形・堆朱、【ギャラリーやまきち】恵比寿・大黒
【ゑびす屋】竹人形、【山上染物店】昭和雛、【吉川酒舗】江戸の雛人形
（鍛冶町）【堆朱のふじい】ひな人形、【コミュニティデイホーム】手作り人形など、【立花商店】土人形
（小国町）【石崎米店】江戸の五人ばやし、【石源】ぼんぼり、【一キ矢部茶屋】雛人形
【丹羽せともの店】ひな人形、【九重園】江戸の大名行列・ひな人形
【成田屋】菓子の人形、【栄食堂】ひな人形、【新町手仕事の会】手作り人形
【やまだや】五月人形、【松本園】江戸の雛人形、【加賀】土人形、【藤井折箱屋】手作り人形
【風月堂】ひな人形
（安良町）【木戸畳店】ひな人形、【北越銀行】大浜人形、【昭月堂】手作り人形、【鍋仲】まねきねこ
【商工会議所青年部】土人形、【酒田や】ひな人形、【肉の川村】市松人形・ひな人形
（飯　野）【益子漆器店】うるしの観音様、【能登新】江戸の雛人形
【大洋酒造】ひな人形・五月人形・土人形
（細工町）【千渡里】佐渡のろま人形、【昔のお菓子ほんま屋】カッパ人形
（大工町）【越後安兵衛大工町店】土人形・ひな人形
（寺　町）【吉源】雛人形、【志ばたや】木彫り人形、【松浦家】雛人形、【たにがわや】ひな人形
（大　町）【早撰堂】江戸の雛人形、【ピノキオ】ひな人形、【さとう毛糸】手づくり人形
【池田屋】土人形、【大光銀行】土人形、【珈琲屋】ひな人形、【夢工房】大正雛
【益甚酒店】江戸のご殿雛、【っ川】／ひな人形、【和悠】ひな人形、【江戸庄】押絵人形
【うおや】時代雛、【會津屋】土人形
（小　町）【きくや】土人形、【益仙】ひな人形、【はたご門】絵てがみ、【三條屋】学生服の小学生
【穂！人】昭和雛、【村上信用金庫】ひな人形、【浪漫亭】ウズベキスタンの土人形
【糸ぐるま】土人形、【清風堂】ひな人形、【こまち広場】和紙人形
【トラヤ】パンの雛人形、【第四銀行】ひな人形、【益田書店】大黒さま
（上　町）【角長呉服店】江戸の雛人形・木目込み人形
（長井町）【池野漆工芸】聖徳太子、【冨士美園】ほてい様・ひな人形、【小杉漆器店】江戸の三福神

（塩　町）【大川屋】おしゃぎり飾り・猩々さま、【益田甚兵衛酒店】武者人形
（三之町）【リブインハーモニー三之町】ひな人形
（堀　片）【酒道楽工藤】ペコちゃん・ひな人形・珍品




**「町屋の人形さま巡り」の案内図**　（資料：村上市観光協会ホームページ）

**町屋の人形さま巡り**　（資料：写真は村上市提供）


城下町村上／第七回
町屋の人形さま巡り
江戸から平成までの人形四千体を各町屋で展示
見学無料
平成十八年三月一日～四月三日
午前九時より午後五時まで（時間・休日は各店により異なります）
場所／新潟県村上市・旧町人町一帯
■同時開催 村上市郷土資料館（おしゃぎり会館）
第二十二回 城下町村上に伝わる雛人形展
（二月二十五日～四月三日 午前九時～午後四時三十分）有料
JR羽越本線
きらきらうえつ運転 三月の各金・土・日・祝に運転〈新潟発10:19 ― 村上着11:12 村上発17:42 ― 新潟着18:38〉
主催／村上町屋商人会
●共催/村上市郷土資料館 ●後援/村上市、村上市教育委員会、新潟県観光協会、村上市観光協会、ウズベキスタン共和国大使館、村上商工会議所、村上市中央商店街振興組合、瀬波温泉旅館協同組合、越後村上・城下町まちなみの会、㈶ニューにいがた振興機構、㈱新潟県異業種交流センター、JR東日本新潟支社、㈶ハウジングアントコミュニティ財団、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟放送網、NT21新潟テレビ21、新潟日報社、日本経済新聞社新潟支局、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、村上新聞社、いわふね新聞社、㈱不二家

人形さま巡りチラシ

**(3)「町屋の屏風まつり」**

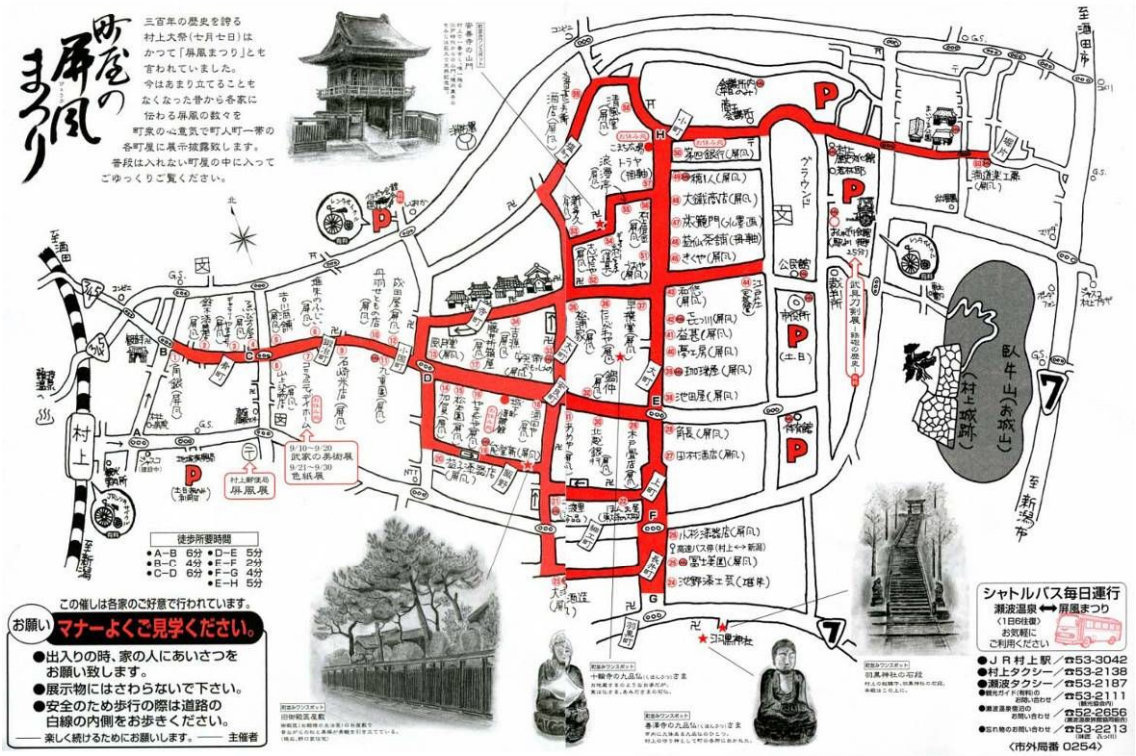
春の「人形さま巡り」に対して秋にも何かイベントがほしいということで、翌 2001（平成 13）年の秋から「町屋の屏風まつり」が始まった。これは、「人形さま巡り」と同じように、町屋に伝わる屏風や道具類を飾り、見学者に町を巡ってもらうというものである。

村上には400年近い伝統を誇る夏祭り（毎年7月7日に行われる「村上大祭」）があるが、昔はその祭りの際に各家は室礼（しつらい）として屏風を立てていた（そのため別名「屏風まつり」と呼ばれていた）。しかしながら今では屏風を立てる家がほとんどなくなり、屏風は蔵に仕舞われたままになっていた。この蔵で眠っていた屏風や道具類を活かしてイベントにしたのが「町屋の屏風まつり」である。毎年 9 月 10 日から 9 月 30 日の 21 日間に約 60 軒の町屋で公開されることとなった。

「町屋の屏風まつり」は「町屋の人形さま巡り」とともに村上市の二大イベントとなり、経済効果はあわせて 5 億円とも言われている。開催費用はそれぞれ 1 回わずか 35 万円ということであり、金をかけずに地域資源を活かして大きな経済効果を生んでいる好例となっている。

「町屋の屏風まつり」も「人形さま巡り」と同様、経済効果以外の効果に意義深いものがあったと考えられている。村上市の町屋に残る屏風には書もあれば絵画もある。屏風の種類も様々であり（本間屏風、風炉先屏風、枕屏風等）、幕末の山岡鉄舟の書の屏風など歴史のあるものも数多くある。道具類や生け花にも村上市の文化の高さを感じることができる。それらの価値を「町屋の屏風まつり」を通してまちの人々が再認識できたことが人々の自信につながり、また、外から訪れる人々にも村上市の他にない価値を見出してもらうことができている。このように、このまちの独自性が再発見されたことこそが、金などとはとても比較にならないまちの宝になったわけである。これは、町屋そのものの価値の再発見に関しても言えることで、まちの外の人々からほめてもらったことで、従来は単なる「ボロ屋」だとしか思っていなかったまちの人々が、町屋を誇りに思うようになったそうである。この気持ちこそが、まち再生にとっては何よりの宝であろう。

屏風まつりのパンフレット




「町屋の屏風まつり」の案内図 （資料:村上市観光協会ホームページ）

町屋の屏風まつり （資料:村上市）

**(4)「黒塀プロジェクト」**

旧町人町の安善小路周辺は歴史的建造物が多く残る地区であるが、ブロック塀が設けられて景観上の問題が生じていた。そこで、そのブロック塀の外観を市民の手で昔ながらの黒塀に戻そうとする市民有志により「チーム黒塀プロジェクト」が発足し、「黒塀プロジェクト」が 2002 年の春から開始された。その活動は、ブロック塀を壊すのではなく、その上に木の板を打ち付けて黒く塗るというものである。費用を調達するために「黒塀 1 枚 1,000 円運動」を実施している（板一枚を千円で市民や観光客に買ってもらい、名前を刻み込んで打ち付けるもの）。

作業は、小町の村上信用金庫本店から安善寺を通って割烹新多久を左折し国指定重要文化財浄念寺に抜ける通称「安善小路」を対象に、「町屋の人形さま巡り」の時期には人々に街並みを楽しんでもらえるよう、2002 年 2 月 24 日（日）から開始された。小学生から高齢者まで 80 名近い市民がボランティアが作業に参加した。

2005 年までに約 160mの黒塀が作られ、現在も「黒塀 1 枚 1,000 円運動」を伴いつつ作業が進められている。同地区では電線の地中化や道路の石畳化を目指す「安善小路と周辺地区の景観に関する住民協定」も締結された。

完成した黒塀

**黒塀プロジェクト** （黒塀プロジェクトチラシより）

**(5)「町屋再生プロジェクト」**

上記のような様々な活動を通じて町屋の価値を見直す動きが広がるにつれて、町屋の価値を客観的に評価したいという考えが関係者の間から出るようになり、市民が(財)日本ナショナルトラストに依頼して学術的調査が行われた。その結果、村上市には 540 棟以上もの町屋をはじめ歴史的建造物が残存していることが判明し、技術的な観点からも価値があると評価された。外観はアルミサッシやボード等で覆われてしまっていても内部は昔のレイアウトや材料そのままであることから、外観を昔ながらの姿に再生することで、これまで取り組んできたソフト面での上記諸活動とあいまって、まちの再生につながるとの評価も得られた。

このようなことから、2004 年 3 月に市民有志が「むらかみ町屋再生プロジェクト」を組織し、町屋の再生に取り組むこととなった。同会は全国から会員を募ることで会費として年に 1,000 万円、10 年で 1 億円集め、10 年間で 100 軒程度の町屋の外観を改修する方針である。会員には組織からまとまって加入するものもあり、会員数は 2004 年 12 月に 300 名を突破し、以後、2005 年 1 月 400 名突破、3 月 500 名突破、4 月 600 名突破、5 月 700 名突破、6 月 800 名突破と急速に増え、2006 年 1 月には 1,000 名を突破した。

再生事業は 2004 年 6 月に第一号として「早撰堂(そうせんどう)」が完成し、2005 年 6 月に第二号として「山上染物店」が、2006 年 2 月に第三号として「池田屋」が、同年 4 月に第四号として「小国町　城下町情報館」が完成している。同会のこれまでの活動は以下のようになっている。

「むらかみ町屋再生プロジェクト」の主な事業

① 町屋再生 1(大町早撰堂、平成 16 年 6 月)
② 町屋再生 2(山上染物店、平成 17 年 6 月)
③ 町屋再生 3(池田屋、平成 18 年 1 月)
④ 町屋再生 4(城下町情報館、平成 18 年 3 月)
⑤ 追手線修景計画案作成
⑥ 講演会
⑦ NPO 法人村上観光ルネッサンス事業参画

同会による町屋の改修は外観だけですむため低コストで行うことができ、それで街並みの趣が一変するためその費用対効果は非常に大きい。同会は、町屋の形は必ずしも昔のままである必要はないが、村上にない形の意匠は避けたいとしている。村上の街並みを回復することで「城下町として個性にあふれ、お祭(オシャギリ屋台)が似合う歴史的な町を再生する」ことを目標に掲げている。

一方、同会は、村上の大工の技術の再生と地元資源の有効活用も促進していきたいと考えている。村上には技術の高さを他県にまで誇る「村上大工」が存在しているが、建築方法の変化の中でその存続が危ぶまれるようになっていた。そこで、同会では地元の大工に「村上大工　匠の会」をつくってもらい、それを町屋再生に生かしてもらうことを考えている。その際、使用する木材を県産材中心とし、地元資源を活用する機会ともしたいと考えている。このように、「むらかみ町屋再生プロジェクト」と「村上大工　匠の会」とが連携することにより、低料金での町屋再生、村上大工の技術の伝承、地元材の有効活用という三面の効果が得られることが企図されている。

外観が再生された「早撰堂」

村上市に残る町屋

入会を呼びかける「むらかみ町屋再生プロジェクト」のパンフレット （資料：同会ホームページ）

**(6) 「村上観光ルネッサンス」**

「住んで良し、訪ねて良し、また来てみたくなるまち。」を実現するために、「観光とは、その地域の文化を五感を使って観る」という観点から活動することを目的として、村上市の観光関係団体や町並み関係団体により 2005 年 6 月、「村上観光ルネッサンス」が設立された。そして、同年 9 月に NPO 法人として新潟県の承認を受けた。構成団体は、村上市観光協会、瀬波温泉旅館協同組合、むらかみ町屋再生プロジェクト、越後・村上・城下町まちなみの会である。主な活動分野は、まちづくり、環境の保全、経済活動の活性化となっているが、設立以来の活動の経緯は以下のようになっている（同会ホームページより）。

| | | |
|---|---|---|
| 2005 年 | 6 月 | 設立総会 |
| | 9 月 | NPO 法人の承認・登記 |
| | 9～11 月 | 観光ルネッサンス事業補助金交付応募・決定 |
| | 12 月 | 観光ルネッサンス事業開始 |
| 2006 年 | 2 月 | 観光村上再生シンポジウム開催 |
| | | 新潟エアーポートライナー村上出発式 |
| | 3 月 | 新潟空港～村上・瀬波温泉間の乗合タクシー運行開始 |
| | 4 月 | シャトルバス「城下町ルネッサンス号」運行開始 |

また、2005 年度実施事業、2006 年度実施予定事業は以下のようになっている。

〔2005 年度実施事業〕

| | |
|---|---|
| 景観形成 | 追手線の景観を整えるために仮板塀を建設 |
| | 町屋の再生デザイン作成事業 |
| 古材バンク | 町屋の外観再生の部材収集のための古材バンク設立 |
| | 古材収集事業 |
| 国指定登録文化財 | 国指定登録文化財への登録申請事業実施事業 |
| | 登録推進パンフレット作成事業 |
| | 登録に向けた説明会開催事業 |
| パンフレット製作 | 観光の国際化の伴い観光パンフレットの多国語化事業 |
| ホームページ製作 | 観光の国際化に伴いホームページの多国語化実施事業 |
| | 観光ホームページの充実事業 |
| 二次交通事業 | 新潟空港～村上　乗り合いタクシー運行事業 |
| | 市内循環バス運行事業 |
| 観光講演会 | 観光意識の高揚を図る観光講演会の実施 |
| 各種おもてなし講座 | 村上茶ソムリエ（茶ムリエ）の養成事業 |
| | ミニ観光案内人の育成事業 |
| 観光案内所 | 城下町情報館設置事業 |

〔2006 年度実施予定事業〕

| | |
|---|---|
| 景観形成 | 追手線の景観整備に関するアンケート実施事業 |
| | 追手線の景観を整えるために板塀を建設 |
| | 景観に配慮した木製フェンスの設置事業 |
| | 町屋の再生デザイン作成事業 |
| 古材バンク | 町屋解体調査保存事業 |
| | 古材収集事業 |
| 国指定登録文化財 | 国指定登録文化財への登録申請事業実施事業 |
| | 登録に向けた説明会開催事業 |
| パンフレット製作 | 観光の国際化の伴い観光パンフレットの多国語化事業 |
| ホームページ製作 | 観光の国際化に伴いホームページの多国語化実施事業 |
| | 観光ホームページの充実事業 |
| 二次交通事業 | 新潟空港～村上　乗り合いタクシー運行事業 |
| | 市内循環バス運行事業 |
| 観光講演会 | 観光意識の高揚を図る観光講演会の実施 |
| 各種おもてなし講座 | 村上茶ソムリエ（茶ムリエ）の養成事業 |
| | ミニ観光案内人の育成事業 |
| 観光案内所 | 城下町情報館運営 |

## 5. 特徴的手法

① 商人、民間団体の自主的、自立的な運営

公共からの補助金、助成金を受けずに、限られた運営コストの範囲内で、創意工夫をして運営を継続している。公共は、全国からの問い合わせの窓口やマップ・資料の配送、インターネットのホームページ等での PR など側面的な支援を行っており、役割分担が明確化されている。

② マスコミの活用

非常に限られた経費予算の中で、マスコミを上手に使って県下を中心に宣伝を行き渡らせ、県内を始め全国から注目を集めた。その結果、初回から予想を超えた観光客の来訪があり、市民、商人たちの心に火を付けることに成功した。

③ 実行部隊としての「村上町屋商人会」若手メンバーの参画

郷土の将来を思い、労を惜しまず活動した若手メンバーの功績が大きい。

④ 参加店の自由裁量性、自主性を尊重

しっかりとした骨組みと戦略性の上で、個々の参加店の自主性に委ねたことが、顧客、観光客との間に交流が生まれ、心を捉えた。

⑤ 村上市民の参画

会を重ねるに従い、ボランティア等陰の部分で支える市民が増えて来ている。市民の郷土を愛する心が、こうした行動に駆り立てるものと思われる。

⑥ 城下町として残る歴史、伝統、文化、芸術性の高さ

町屋を舞台にした人形、屏風、道具類の魅力とそれが飾られている町屋建築自体の歴史性、文化性の双方で観光客にあたえる知的刺激、文化的刺激が評価された。

⑦ 人と人とのふれあい

町屋の住人が説明役に参加し、個人的な来客をもてなすような感じで観光客を親切に温かく迎え入れたため、観光客と家の住人との間に「出会い」、「ふれあい」、「交流」が生まれた。観光客一人一人が大切にされて予想外のものに出会う可能性を持つという旅の原点のような環境を実現できている。

⑧ 程よい「ボリューム感」「バリエーション感」

種々の人形等が見られることの楽しさを、参加店 60 数店という適度な量感と内容とで提供している。

⑨ 観覧「無料」

無料であることの気安さが、仲間を誘い合わせての来訪やリピーターの増加を促進している。

## 6. 課題

① 商人町の原点に帰った振興策の継続的な実施

上記のイベント・祭りが開催される時期は観光客が大幅に増加しているが、それ以外の時期は減少が顕著である。観光客頼みに偏らず、観光の要素をバランスよく取り込みながら、地域が独自に自立する道を築く必要がある。

② 商店街の衰退原因を明確化した上での持続的な活性化策の実施

中心市街地が活性化するためには、商業者自らが、郊外の大規模な商業施設にはない、個性的できめ細かなサービス・商品を提供する店舗へ脱皮を図る必要がある。

③ 観光振興、まちづくりにおける公共・民間の役割分担の明確化と有機的な連携

現在は民間主導でソフト、ハードの施策を実行しており、行政が側面的な支援を行っている。民間は、限られた経費予算の中で、最大限の創意工夫により様々なイベント・祭りを実行している。今後も、民間の自主・自立の姿勢は尊重する必要があるが、市全体のポテンシャルを高め、交流人口の増大を図るためには、公共・民間の役割分担を明確化して、両者の有機的な連携を促進する必要がある。村上市は観光振興を地域活性化の大きな柱に位置づけているが、今後は核となる観光資源を明確化してその重点的な整備・再生を図り、観光客が何度もリピートするような観光振興施策の展開を図る必要がある。また、外国人観光客の拡大を図るためにはサービス、施設、情報提供等の受け皿、インフラを整備することが大切である。

④ 城下町としての町並み整備、景観の創出

町の発展を図るためには、その地域の歴史・伝統の特質を維持している部分の「作りこみ」が必須である。また、数多く残る歴史的伝統的な建物を保存、再生するためには、町並みに対する地域住民の意識を育てることが重要である。そのためには、商店街の個々の店舗が、町並みの構成要素の一つであることを意識し、まちづくりに参画しているという意識を持つことが必要である。

(参考・引用文献)

村上市ホームページ
本文紹介の各団体等のホームページ
「町屋と人形さまの町おこし～地域活性化成功の秘訣」（吉川美貴著、学芸出版社）